

滋賀ロケーションオフィス ニュース



第8号 平成17年(2005年)7月31日発行

発行：滋賀ロケーションオフィス
(社団法人びわこビジターズビューロー内)
〒520-0806
滋賀県大津市打出浜2番1号
「コラボしが21」6階
TEL：077-511-1537
FAX：077-523-7555
E-mail：info@shiga-location.jp
URL：http://www.shiga-location.jp

サポーター登録者数 1,281人
(平成17年7月20日現在)

NHK 大河ドラマ『功名が辻』 滋賀ロケ迫る

2006年のNHK大河ドラマが司馬遼太郎さん原作「功名が辻」に決定後、脚本家の大石静さんがシナハン(※1)で来県され、メインスタッフも県内各地でロケハン(※2)を重ね、8月下旬に迫った県内ロケの準備もいよいよ大詰めを迎えています。オフィスではドラマ決定を受けて、これまで関



現場でも入念な打ち合わせが何度も繰り返されました。



ロケに先立ってドラマ中で使用される実景撮影も進行中です。

係市町と協力しながらロケ誘致と地元支援を積極的に展開してきました。

作品イメージが重視されるのはもちろんのこと、時代劇では「バレモノ」(※3)が見あたらないロケーションが前提となる上、撮影現場への交通アクセスも無視できません。県内には時代劇に相応しい景観が数多く残されていますが、それでも本作品のロケ地探しは苦労の連続でした。

ドラマのためにつくられた「千代の生まれた村」のオープンセット撮影のほか、「千代と一豊の再会シーン」、「合戦や行軍シーン」などが、高島市や甲賀市ほかで行われる予定です。

また、ドラマゆかりの地である長浜市や近江町、虎姫町などでは、『功名が辻』を新たなまちおこしのきっかけにするため、観光キャンペーン等に積極的に取り組んでいます。オフィスでもロケ支援と併せて、滋賀への観光誘客を推進していきます。

- ※1 シナハン：シナリオ作りのために行う現地取材のことです。シナリオハンティングの略。
- ※2 ロケハン：ロケ地探し、ロケーションハンティングの略。
- ※3 バレモノ：時代劇ではNGとなるビルや電柱などのいわゆる現代物。時にはCGで消してしまうことも。

2006年NHK大河ドラマ

『功名が辻』

強い愛を胸に夫を励まし続けた山内一豊の妻・千代と、「愚直」という真心ひとつで戦国の終わりまでを駆け抜けた夫・一豊の愛と知恵の歴史を描いた物語です。主人公の千代役に仲間由紀恵さん、一豊役に上川隆也さんほか、新たに6月に発表された主な出演者は次のとおりです。(以下、敬称略)

「五藤吉兵衛」	武田 鉄矢……山内家家臣、一豊の口うるさき指南役
「祖父江新右衛門」	前田 吟……山内家家臣、千代・一豊の相談役
「法秀尼」	佐久間良子……一豊の母
「豊臣秀吉」	柄本 明……人蕩しの天才
「寧々(ねね)」	浅野ゆう子……秀吉の正妻
「石田三成」	中村橋之助……義に生きる智将
「きぬ」	多岐川裕美……千代の養母
「不破市之丞」	津川 雅彦……千代の養父
「浅井長政」	榎木 孝明……近江・小谷城主
「山内康豊」	玉木 宏〔大河ドラマ初出演〕 ……一豊の弟
「小りん」	長澤まさみ〔大河ドラマ初出演〕 ……一豊を翻弄する忍びの者

大河ドラマに 出演してみませんか

『功名が辻』ロケにご協力下さるエキストラ出演者を募集しています。出演は桶狭間の戦いや長篠の戦いなど合戦シーンや軍勢の行軍シーンなど。甲冑を身にまとい、まさに「戦国」を体感できるエキストラです。ご応募お待ちしております。

撮影期間：平成17年8月25日(木)～9月15日(木)
募集人員：1日最大160人(日によって人数は異なります)
撮影場所：滋賀県内(高島市、甲賀市ほか)
募集条件：18歳から50歳位までの男性。

エキストラは一日単位、早朝・深夜になる場合もあります。
弁当・謝品が出ますが、出演はボランティア協力となります。

集合場所までは、原則各自でお願いします。
申込方法：氏名、年齢、身長、体重、住所、連絡先(電話/携帯/FAX/メール)および期間中の出演可能な日を明記して、ハガキまたはFAX、メールでオフィスまでお申し込み下さい。

応募締切：平成17年8月10日(水)

大正ラブストーリーのロケ地は東近江の古刹

映画『春の雪』 東宝映画

その複雑で深遠な精神世界ゆえに映像化困難と言われた三島由紀夫氏の同名小説を原作として、映画『春の雪』のロケがこのほど東近江市で行われました。

大正初期の華族社会を舞台とした、侯爵家の嫡男と伯爵家の令嬢の儂くも美しい悲恋のラブストーリーです。メガホンをとるのは、映画『世界の中心で、愛をさけぶ』や『北の零年』などで立て続けにヒットを飛ばす行定 勲監督。

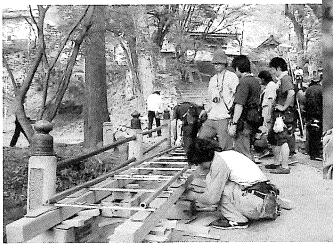
ロケ地の決め手となった石段から山門にかけてのたたずまいが美しいお寺として、東近江市の東光寺で5月下旬にロケが行われ、主演の妻夫木聡さんと竹内結子さん、そして宮崎美子さんの出演シーンが撮影されました。

納得いくまで本番撮影を何度となく繰り返す、その撮影スタイルから“粘りの行定”として知られる行定監督、この日も早朝から日没ぎりぎりまで粘りに粘って撮影が行われました。

映画は10月29日(土)全国東宝洋画系劇場にて公開されます。

映画『春の雪』公式WEBサイト <http://harunoyuki.jp>

カメラをのせて撮影するためのレールを準備しています。



©2005『春の雪』製作委員会

ロケ地は棚田百選のビューポイント

映画『男たちの大和/YAMATO』 東映

昭和16年完成当時、“世界最大最強の不沈戦艦”と謳われた日本海軍の戦艦「大和」。太平洋戦争の開戦直後に完成した大和は、その後の昭和20年4月、沖縄に向けた水上特攻に出撃し、アメリカ軍の攻撃によって3000名近い乗組員と共に九州沖で沈没しました。



大勢のスタッフに、撮影用クレーンも持ち込まれ、静かな山里もこの日は大賑わい。

太平洋戦争終結から60年の節目にあたる今年、辺見じゅんさんの傑作ドキュメント「男たちの大和」を原作として、大和とその乗組員達の足跡をたどる壮大な物語が映画化され、6月初旬に高島市で2日間にわたりロケが行われました。

ロケ地となったのは、高島市畑地区の棚田です。周囲を山に囲まれた急斜面に無数の棚田が広がる美しい田園風景は、郷愁を誘う日本の原風景として「日本棚田百選」にも選定されています。

ロケ現場には炭焼き小屋のオープンセットが建てられ、大和乗組員である息子の母親役の余貴美子さんの出演シーンが撮影されました。

広島県尾道市では大和の原寸大の巨大セットがつけられ、撮影終了後は一般公開が始まるなど、映画の封切り前から大きな話題を呼んでいるこの作品、12月17日(土)より全国東映系でロードショーです。

映画『男たちの大和/YAMATO』公式WEBサイト <http://www.yamato-movie.jp/>



余呉小・児童の皆さんお疲れ様でした

終戦60年特別ドラマ『二十四の瞳』 日本テレビ

これまで幾度となく映像化されてきた不朽の名作『二十四の瞳』が、黒木瞳さん主演で再びドラマ化され、6月に余呉町でロケが行われました。

この作品は、小豆島を舞台に黒木さん演じる女性教師・大石久子と十二人の子供たちの心の交流を描きながら、平和の尊さや教育の本質を見つめるもので、原作小説は壺井栄さんの代表作です。

ロケ地となったのは、今では数少なくなった木造校舎が残る旧丹生小学校。ロケは余呉町の全面協力のもと実現しました。主人公の久子が教鞭をとる分教場の

本校に見立てて、地元・余呉小学校の児童の皆さん61名が子役のエキストラとして出演しました。

時代設定が終戦前後の混乱期となるため、子役の児童たちは、あらかじめ男子は丸刈り頭、女子はおかっぱ頭に变身して意気込み十分。学童着や和服姿となり、卒業式のシーンではロケに備えて練習を重ねてきた「仰げば尊し」を唄うなど、撮影当日の悪天候を吹き飛ばす熱演でした。

なお、ドラマは読売テレビで8月2日に放送されました。



町民の皆さんが見守るなかロケが行われました。

ロケに参加してー余呉小のみなさんからー

「二十四の瞳」のロケに参加したことは、一学期のよい思い出です。撮影をする時は凄く緊張したけれど、お母さんが「頑張って」と言ってくれたので落ち着いて演技することができました。

【4年生・三國莉奈さん】

僕は最初に着物に着替えましたが、サイズもピッタリでみんなに「よく似合ってる」と言ってもらいました。卒業式シーンでは、前の方におられた役者さんの泣く演技がとても上手でビックリしました。またこういう機会があったらいいと思います。

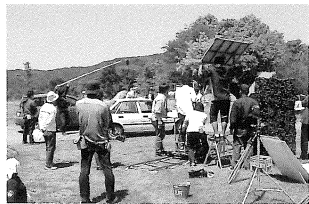
【5年生・山根幸喜さん】

私が心に残ったことは、「黒木瞳さんに会えたこと。」「ドラマを撮影するのはすごく大変なこと。」です。いつもは何気なしに見ているドラマだけど、このロケに参加して、撮影のいろんな苦労がよくわかりました。このロケに参加してよかったです。

【6年生・永井 蒼さん】

今シリーズは滋賀ロケてんこ盛り

ドラマ『新・科捜研の女』 朝日放送



県内各地の意外な場所がロケ地になっています。

7月からスタートした沢口靖子さん主演の人気ドラマ『新・科捜研の女』が、県内各地で撮影進行中です。

今シリーズで第5弾(全10話)となるドラマは、京都を舞台に沢口さん演じる主人公・榊マリコの人間性を通して、事件の真相に迫るヒューマンミステリー。“大事件を解決する科学捜査のキレイのよさ”が毎回評判になっています。

オフィスではドラマ制作に際して県内のロケ適地を積極的に紹介し、シリーズ最多の滋賀ロケが実現しました。

放送済みも含めて、県内で行われたロケは右のとおりです。

ドラマは毎週木曜夜 8時から朝日放送・6チャンネルで好評放送中です。

～FILE01～

甲賀市信楽町の県立陶芸の森や市役所信楽支所などがロケ地となりました。劇中では、キャンプ場や警察署など実際とは異なる設定で撮影が行われています。(7/14放送済み)

～FILE04～

多賀町にある河内の風穴でロケが行われました。ロケ当日、外気温は27℃と蒸暑い日でしたが、風穴内部の気温はなんと13℃!あまりの温度差に沢口さんもビックリ。

(8/4放送済み)

～FILE05～

大津市のロイヤルオークホテルで3日間にわたりロケ。パーティーホール「スターズ」での撮影には、20名のサポーターの皆さんにエキストラ出演いただきました。

(8/11放送)

～FILE06～

大津市内の高校でロケ。比叡山高校でのロケには、実際の先生に劇中の先生役として出演いただき、北大津高、滋賀女子高でもロケが行われました。

(8/18放送)

～FILE08～

事件の舞台は京阪・浜大津駅に近い大津市社会教育会館。昭和9年に建てられたレトロムードたっぷりの建物です。

(9/1放送)

ドラマ『新・科捜研の女』公式WEBサイト
<http://www.tv-asahi.co.jp/kasouken/>



「京都」、でもロケ地は「滋賀」!

月曜ミステリー劇場

山村美紗サスペンス『京都華道家元殺人事件』

毎日テレビ

“2時間ドラマの帝王”こと船越英一郎さん主演のサスペンスドラマ『京都華道家元殺人事件』のロケが、大津市内のホテルで行われました。

船越さん扮する狩矢警部が難事件を解決する人気シリーズ、ロケ地となったのは琵琶湖グランドホテルです。映像業界ではサスペンスドラマのロケ地として広く知られる同ホテルですが、今回ロケが行われたのは日本情緒漂う別館「京近江」。

華やかなイメージの陰で繰り広げられる華道家元一族をめぐる複雑な人間模様とそこで起きる事件を描くドラマです。



エキストラとして協力いただいた約60名のサポーターの皆さんには、華道展の来場者役で出演いただきました。放送日は今のところ未定です。

“サポーターのみなさんから”

初めてエキストラに参加しましたが、非常に楽しく、ほどよい緊張も味わうことができ、有意義な経験ができました。テレビの放映では自分が映っているか不安ですが、やはり出演するというより参加することに意義があるように感じられました。いろんな経験ができたことに感謝です。

(田中和雄さん)

着物姿で、たくさんの素敵なお花を見ることが出来て(本当の華道展であれば入場料がいるのに……(笑))、とても楽しかったです。セットの生け花がカメラを意識して生けられていたことが印象的でした。また、船越英一郎さんとお話することができ、とても感じがよくてファンになりました。とても和やかに楽しい時間を過ごすことができました。

(四畑みゆきさん)

滋賀の田園と町並みが舞台です

映画『ポーラの恋人』

EIZOH.COM

自主制作映画をインターネット配信している映画作家集団「EIZOH.COM(エイゾウドットコム)」。最新作『ポーラの恋人』(西野雄士監督)のロケ撮影が県内で行われ、約2ヶ月間の撮影を終えて6月上旬にクランクアップしました。



全国でも数少なくなった木造駅舎が今も現役で頑張っています。

この作品は、滋賀を舞台に二人の男女の30年にわたる心の物語として、不器用に、しかし真摯に互いの心に触れ合いながら、共に歩いていく気持ちを育む姿を描きます。

オフィスでは、屋外ロケが全て滋賀で行われるこの作品のため、撮影に必要な許認可手続きを中心にロケをサポート。琵琶湖畔をはじめ東近江市内の商店街や延命公園、大正時代の華やかな面影を残す近江鉄道・新八日市駅などがロケ地となりました。新八日市駅は、歳月を経た木造駅舎の持つ味わい深いたたずまいが映像制作者にも人気のロケ地です。電車内での通勤シーンの撮影と併せて、近江鉄道協力のもとロケが行われました。

この作品は、「EIZOH.COM」公式WEBサイトにて11月から無料公開の予定です。ぜひご覧ください。

「EIZOH.COM」公式WEBサイト

<http://www.eizoh.com>

『ポーラの恋人』製作情報なども楽しく紹介されています。

伝説の国民的歌手を偲んで

NHK・BSスペシャル 『美空ひばり・旅ひととせ』

歌手・美空ひばりさんがこの世を去って17回忌を迎えた今年、ドキュメンタリー番組『美空ひばり・旅ひととせ』が制作・放送されました。

一人の男性が恋人のもとを離れて一年間日本をめぐり、最後は恋人のもとへ帰って来るという物語を、小椋佳さんの美しい詩とメロディで歌い込んだ美空ひばりさんのCD「旅ひととせ」を映像でつづったものです。

番組の構成・演出は、ドラマ『大地の子』をはじめ数々の名作ドラマを手がけてきた岡崎栄さん。滋賀を含め1年かけて日本各地でロケが行われました。

全12曲中、大津市で撮影されたのは6月の歌「紫陽花」です。「歌詞に忠実に、6月初めの雨の日で大津市内の紫陽花が美しいお寺で撮影したい」という岡崎さんのリクエストに応じて、オフィスでは担当スタッフがロケ地探しに奔走、石積みの美しい坂本地区の慈恵堂境内で撮影をさせていただくことになりました。心配されていた天気もロケ当日に無事(?)に雨が降ったことでイメージどおりとなり、開花時期には少々早い紫陽花も演出の「技」でしっかり撮り終えることができました。



市民がつくる滋賀の映画祭を目指して

甲賀映画祭が開催

昨年、本格的な劇場公開映画のロケが相次いだ甲賀市で、今秋「第1回甲賀映画祭」が開催されます。市民団体の甲賀シネマパーティーが開催するこの映画祭では、活動弁士による昔懐かしい無声映画から実際の事件を題材にした注目の話題作まで、厳選された約20作品を上映予定。オフィスも映画祭開催を積極的に支援していきます。

日程：平成17年11月23日(水・祝)～27日(日)

会場：甲賀市碧水ホール、滋賀県立水口文化芸術会館ほか

上映作品：アジアや日本の劇映画、ドキュメンタリー映画、自主制作映画から厳選した約20作品。

オープニング上映

『滝の白糸』（溝口健二監督 無声映画）

クロージング上映

若松孝二監督最新作『17歳の風景 少年は何を見たのか』

ゲスト：若松孝二監督や高橋伴明監督ほか、国内外から総勢10名前後のゲストを招いて、交流会やゲスト提供の資料展示なども行われます。

問い合わせ先：甲賀シネマパーティー（甲賀映画祭実行委員会）事務局

TEL 0748-63-2006 碧水ホール内

「甲賀映画祭」公式WEBサイト

http://www.cinepa.jp

お知らせ サポーターの登録更新時期がやって来ました

お手元のサポーター登録証の有効期限は本年9月末までです。オフィスにおいて新カードを作成して皆さんのお手元に郵送しますので、特に更新手続きは不要です。

なお、登録後に連絡先が変わった方や事情により登録抹消を希望される方はオフィスまでご連絡下さい。

どうぞお見逃しなく！まもなく放送・公開です

今号で紹介した以外にも、滋賀でロケが行われた映画やドラマの放送・公開が決まっています。

9月17日(土)放送(関西テレビ夜8時)

歴史バラエティー『日本の歴史(仮)』

SMAPの草彅剛さんが出演、4時間で2000年間の日本の歴史を学びます。「織田信長」編が滋賀で撮影されました。ロケ地／西教寺(大津市)、錦織寺(野洲市)、楽々園(彦根市)ほか

※日時は変更される場合がありますので、あらかじめご確認下さい。

10月1日(土)公開(全国東宝系)

映画『蝉しぐれ』

作家・藤沢周平さんの代表作を映画化、本格的時代劇です。監督／黒土三男、出演／市川染五郎・木村佳乃ほか
ロケ地／西明寺(甲良町)、八幡堀(近江八幡市)、彦根城、西の湖(安土町)ほか

私たちは、滋賀の素晴らしい風景や文化などを全国に紹介するため、滋賀ロケーションオフィスの活動を支援しています。

滋賀県信用保証協会
滋賀県興行協会
関西電力株式会社
株式会社ゼンリン
琵琶湖汽船株式会社
宮川印刷株式会社
大津プリンスホテル
ホテルニューサイチ
株式会社ヒサダ栄堂

株式会社滋賀銀行
株式会社びわこ銀行
西日本電信電話株式会社
NTTオートリース株式会社
びわ湖放送株式会社
綾羽株式会社
近江タクシーサービス株式会社
株式会社TMオフィス

(敬称略・順不同)

前号から少し時間が空いてしまいましたが、どうか第8号の発行にこぎつけました。「次号はいつ出るの?」と問い合わせを受けるたびに、「なかなか忙しくて……」と冷や汗をかいていた編集担当者もほっと一息。

しかし、いよいよ始まるNHK大河ドラマロケ、そして同時期に劇場公開用映画が滋賀で長期ロケに入るなど、これから県内ロケが目白押しです。オフィスのスタッフにとって、今年の夏はとびっきり暑い夏になりそうな予感。サポーターの皆さんの変わらぬご支援をお願いします。

編集
後記